反社会的行動におけるスクールカウンセラーと教師の連携に関する研究

学校教育専攻
教育臨床 コース
竹口　佳昭

指導教官　吉井　健治

1　問題と目的

学校臨床に寄与しうるような非行臨床に基づいた臨床心理学的研究は，これまであまりなされていない（野村 2002）。また，スクールカウンセラー（以下 SC と略す）が反社会的行動をとる生徒の問題に取り組んだ事例の研究論文は，東（2001），羽間（2006）がある程度でとても少ない。そこで，反社会的行動をとる生徒が SC と教師の連携によって，自己の変容をはかれるような方策を考察していきたい。

SC 制度で派遣されている SC は専門的知識を持っているが，不登校の生徒を中心にカウンセリングを行っている。また，筆者の経験から学校側も SC に対して，反社会的行動をとる生徒のカウンセリングを任せようとする管理職や教師は少ない。

そこで本研究は，SC が反社会的行動をとる生徒に対してどのように取り組んでいるかについて面接調査を行い，その実態と課題を明らかにすることを目的とする。また，SC と教師がどのように連携をとれば，反社会的行動をとる生徒に対して有効な関わり方ができるかを検討することを目的とする。

2　研究の方法と対象

調査対象者はA県，B県，C県のSC 8名である。

本研究では，半構造化面接法を用いて約 1 時間半の面接調査を行った。

面接調査内容は大きく 7 つ，①基本的事項，②来室経路について，③教師の性格について，④生徒の性格について，⑤SC の性格について，⑥支援と対策について，⑦成果と課題についてである。

実施期間は2006年7月～11月までであり，8名についての調査実施時間の合計は，12時間35分であった。

3　結果と考察

(1)　面接調査

各 SC の面接調査内容を 2 の①～⑦についてまとめた。

(2)　個別考察

SC 8名のうち，ここではA氏の個別考察を提示する。

A氏は，自分が反社会的行動をとる生徒に対して許せないという感情を持ちながら，その実，とても優しく反社会的行動をとる生徒に接している。反社会的行動をとる生徒の辛い気持ちや罵声を大人の代表として受け入れているA氏は，反社会的行動をとる生徒は防衛や大人への不信感が強く，他人に今まで信頼されたことが少ない。だから，いじめても壊れず，自分たちを大事に思ってくれる大人を求めていると語った。

また，反社会的行動をとる生徒たちは，自分たちを受けとめてくれる人を求めたり，厳しいけど温かい人間の心を求めていると述べているが，これは，今まで親からの受けいれ

てもらえなかった気持ちの裏返しであろう。

さらに，A氏は提案として，教師が授業に出ない生徒に対して，教師が彼らと一緒に，料理を作ったり，ものを制作したり，破壊するような関わりをもつことを説いている。そのような関わりによって，教師は反社会的行動をとる生徒と心が繋がり，反社会的行動をとる生徒以外の生徒の学習権も確保できる。その結果，生徒と教師の信頼関係が生まれ，それが生徒間に和の心を広げていくのである。

(3) 全体考察

①教師側の問題である。教師の半数以上は，教師という職業に就いた後にSC制度が導入された。そのため，SC制度自体に馴染みにくいという問題がある。さらに，SCが導入された当初，一部のSCが反社会的行動をとる生徒の対処に失敗して学校現場が混乱した。その状況を聞いた近隣の学校の教師は，反社会的行動をとる生徒に対してSCが関わることを拒否する傾向が広がった。これを払拭するにはSCの地道な活動しかないであろう。

②SC側の問題である。SCは，反社会的行動をとる生徒を抱え込みやすい教師や，どのような問題にも自分で解決していきたい教師や，生徒を表面上でしか理解しようとしない教師などの，それらのすべての教師を包み込むようなゆとりと優しさをもって，常に職員室で話しやすい雰囲気を醸し出す必要がある。また，SCは毎日毎日，反社会的行動をとる生徒に困っている教師の気持ちを共有しにくいが，その感情も理解することが大切である。

③枠の問題である。反社会的行動をとる生徒がSCのもとを約束どおり訪れることは難しい。そこで，教師が反社会的行動をとる生徒に，相談室に行くように指示する必要ができる。そのためには教師と生徒との信頼関係，SCと教師との信頼・連携が必要となる。

④コンサルテーションの問題である。反社会的行動は緊急性が高いため，勤務日が1日ないし2日しかないSCでは対処が難しい。そこでSCが教師に反社会的行動をとる生徒に対しての効果的な関わり方について，教師とは違った視点を伝えることが大切になる。

⑤SCと反社会的行動をとる生徒の保護者との面接である。反社会的行動をとる生徒の保護者は，学校との関係がうまくいっていないことが多い。また，地域からも孤立しがちで，自分の子どもの問題を相談するところがないのが現状である。だから，教師が保護者とSCを繋ぐのである。反社会的行動をとる生徒の保護者は，SCに自責感や苦悩を十分に聴いてもらうことによって，心の重圧から解放される。また今までとは違った視点から子どもに関わることができる。その結果，反社会的行動をとる生徒は保護者や教師に心を開き，その行動は沈静化するのである。

4 研究のまとめと課題

反社会的行動におけるSCと教師の連携について研究をしてきた。SCと教師が信頼関係を強くし，教師が保護者をSCに繋げ，SCが反社会的行動をとる生徒の保護者に関わることで，その保護者は癒され、新たな視点を見つけることができるようになる。それが保護者の心に余裕を生み，保護者の子どもへの関わり方を変える。その結果，子どもは心を開き，反社会的行動は沈静化するのである。

今後の課題は，教師側からの調査研究、児童相談所，警察等の調査研究を行い、その対処や関わり方の違いについて検討する必要がある。